

## 会 議 概 要

会議の名称	第3次社会教育中期計画策定に係る第1回第1部会（基盤整備・少年教育・青年教育）会議
開催日時	令和4年8月10日（水） 18時00分 開会 20時00分 閉会
開催場所	文化センターさざ波 2階団体研修室
出席者名	平野委員、工藤委員、鈴木委員、杉原委員 4名 教委～坂本課長、渡辺主査
欠席者名	高野委員
傍聴人の数	なし
会議の内容	1. 開 会 2. 議 事 議案第1号 第3次社会教育中期計画第1部会長の選出について 議案第2号 基盤整備・少年教育・青年教育における現状と課題について 3. 閉 会
会議資料	第3次社会教育中期計画策定に係る第1回第1部会（基盤整備・少年教育・青年教育）会議議案
会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 有 （ <input type="checkbox"/> 全文筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 ） <input type="checkbox"/> 無
備考	

# てん末書

## 1 日 時

令和4年8月10日(水) 18時00分～20時00分

## 2 会 場

文化センターさざ波 2階団体研修室

## 3 会議及び用務

第3次社会教育中期計画策定に係る第1回 第1部会（基盤整備・少年教育・青年教育）会議

## 4 出席者

部会担当委員～平野、工藤、鈴木、杉原各委員 4名（欠席：高野委員）  
教委～坂本課長、渡辺主査

## 5 結果要旨

1. 開 会
2. 議 事

○議案第1号 第3次社会教育中期計画第1部会長の選出について  
～平野委員を選出（以下平野部会長が議事進行）

○議案第2号 基盤整備・少年教育・青年教育における現状と課題について  
～基盤整備に関連する文言修正はなし

### 【基盤整備（施設）に係る主な意見】

（鈴木委員）：施設について特に不満を聞いたことはない。8月にオープンする遠軽町のメトロプラザを見てきたが、人が集う場にする工夫があるので参考になる。

（平野委員）：百年記念公園はサッカー少年団が使用しているが、位置づけは体育施設ではなく公園となっている。七夕まつりで

利用しているし仕方ない部分ではあるが本当は体育施設としたいところ。

また、2カ所あるゲートボール施設は例えば「多目的運動場」などに名称を変更した方が利用しやすいのではないか。ただ経費をかけてまで変更する必要はないと考える。

**【基盤整備（湧く湧く、ホームページ）に係る主な意見】**

(事務局)：現在生涯学習情報紙として「湧く湧く」を毎月発行しているが、町としてはほかに広報ゆうべつ、かわらばん、町のホームページでも情報提供する手段がある。参加者募集などはかわらばんやホームページを活用し、「湧く湧く」については事業の結果を載せる媒体としての役割としているが、これについてはいかがでしょうか。

(平野委員)：学びの成果を報告、披露する場としてその方針で編集するのがいいと思う。先人たちの努力で作りに上げてきた情報誌なので、無くす訳にはいかない。

(工藤委員)：即時性があるホームページはもっと活用すべきだが、紙媒体は絶対に必要。配布されているので若い人も読んでいる。

(平野委員)：管内市町村への情報誌の送付を取りやめた市町村も多いようだが、送ることにも意味はあると思う。わざわざホームページで検索してまで読んでくれない。これまでどおり送り続けてもいいのではないか。

(杉原委員)：町の公式インスタグラムももっと活用した方がよい。

(事務局)：第2部会で出た話で、サークル活動紹介や募集についてのコーナーを「湧く湧く」で作ってはどうかという話があったがいかがでしょうか。

(杉原委員)：そういった発信の場はあった方がよい。湧く湧くにコーナーを作るのもいいが、別物として年1回程度サークルや少年団を一覧にしたものを作成配布するのはどうか。こういった団体があるのか周知することができる。

(事務局)：数年前に有志の方々に習い事マップを作成したことがある。サークルや少年団だけではなく、民間で営業している教室なども網羅したもの。営利の部分があるので教育委員会で作成するのは難しい。

(杉原委員)：広報ゆうべつのように有料広告として出してもらえばできないだろうか。検討してほしい。

(鈴木委員)：「湧く湧く」の資料に、「町民が必要としている情報を的確に把握…」とあるが、情報を的確に得ることは難しい。

我々委員も努力する必要もあるが、情報を集める方策も考える必要がある。

○その他 次回の部会は 8/31 (水)

文化センターさざ波 2階団体研修室 18時30分～

# 令和4年度

## 令和4年度 第3次社会教育中期計画策定に係る第1回 第1部会(基盤整備・少年教育・青年教育)会議

と き 令和4年8月10日(水)  
午後6時00分

ところ 文化センターさざ波 中会議室

### <会議日程>

#### 1. 開 会

#### 2. 議 事

議案第1号 第3次社会教育中期計画第1部会長の選出について

議案第2号 基盤整備・少年教育・青年教育における現状と課題について

その他

#### 3. 部会長あいさつ ・ 閉会

湧別町教育委員会

領域	担当委員
生涯学習の基盤整備・社会教育施設・少年教育活動・青年教育活動	平野、工藤、鈴木、杉原、高野委員
家庭教育活動・成人教育活動・高齢者教育活動	山本・梅田・毛利・渡辺・山口委員
芸術文化活動・博物館文化財活動・文化施設	深谷・安瀬・武藤・三橋委員
図書館活動	図書館協議会委員
スポーツ活動・スポーツ施設	スポーツ推進員

### 第3次湧別町社会教育中期計画 現状と課題（基盤整備）検討資料

第2次社会教育中期計画	第3次社会教育中期計画	備考
<p style="text-align: center;"><b>第10節 生涯学習の基盤整備と社会教育施設整備の 現状と課題・推進目標・推進項目</b></p> <p>【生涯学習の基盤整備と社会教育施設整備の現状と課題】 生涯にわたってあらゆる機会や場所において、様々な学習活動がより効果的になるよう各関係機関・団体との連携強化に努めてきました。</p> <p>また、地域の施設を拠点とし、地域ぐるみで生涯学習を推進するサークル等が自主的に学習活動を行うための支援、生涯学習情報誌の発行や相談体制の充実を図ってきました。</p> <p>現在、生涯学習施設として、文化センター（2施設）、ふるさと館J R Y、郷土館、図書館（2施設）、総合体育館（2施設）、野球場（2施設）、ゲートボール場（2施設）、パークゴルフ場、スキー場などの施設があり、多くの町民に利用されています。</p> <p>しかし、昭和50年代から60年代にかけて建設された施設については、老朽化が進み、改修工事や修繕を必要とする施設が多く、計画的に改修工事等を図っていますが、まだ整備が必要な施設があります。</p> <p>施設の維持管理については、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上や経費の削減を図ることを目的に指定管理者制度（ふるさと館J R Y、図書館を除く）を導入し、利用者の視点に立った施設の整備充実を図るため、指定管理者と協議しながら、サービスの向上に努めてきました。</p> <p>また、町内全ての公共施設等における将来の基本的な管理方針を定める「公共施設等総合管理計画」が平成29年3月に<u>策定されたことから、施設の統廃合も含めた具体的な実行スケジュールが提示されました。</u>この計画を踏まえ、今後も町民が生涯にわたって、日常生活の中で目的に応じて気軽に施設の利用ができるよう、施設の適正な維持管理や整備の充実に努めます。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各関係機関・団体との相互の連携・協力を図る必要があります。</li> <li>○ 生涯学習情報の収集・提供、相談体制の充実に努める必要があります。</li> <li>○ 住民の自主活動に対する支援体制の整備が必要です。</li> <li>○ 必要に応じ施設の改修等に努める必要があります。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>第10節 生涯学習の基盤整備と社会教育施設整備の 現状と課題・推進目標・推進項目</b></p> <p>【生涯学習の基盤整備と社会教育施設整備の現状と課題】 生涯にわたってあらゆる機会や場所において、様々な学習活動がより効果的になるよう各関係機関・団体との連携強化に努めてきました。</p> <p>また、地域の施設を拠点とし、地域ぐるみで生涯学習を推進するサークル等が自主的に学習活動を行うための支援、生涯学習情報誌の発行や相談体制の充実を図ってきました。</p> <p>現在、生涯学習施設として、文化センター（2施設）、ふるさと館J R Y、郷土館、図書館（2施設）、総合体育館（2施設）、野球場（2施設）、ゲートボール場（2施設）、パークゴルフ場、スキー場などの施設があり、多くの町民に利用されています。</p> <p>しかし、昭和50年代から60年代にかけて建設された施設については、老朽化が進み、改修工事や修繕を必要とする施設が多く、計画的に改修工事等を図っていますが、まだ整備が必要な施設があります。</p> <p>施設の維持管理については、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上や経費の削減を図ることを目的に指定管理者制度（ふるさと館J R Y、図書館を除く）を導入し、利用者の視点に立った施設の整備充実を図るため、指定管理者と協議しながら、サービスの向上に努めてきました。</p> <p>また、町内全ての公共施設等における将来の基本的な管理方針を定める「公共施設等総合管理計画」が平成29年3月に<u>策定されており、</u>施設の統廃合も含めた具体的な実行スケジュールが<u>提示されています。</u>この計画を踏まえ、今後も町民が生涯にわたって、日常生活の中で目的に応じて気軽に施設の利用ができるよう、施設の適正な維持管理や整備の充実に努めます。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各関係機関・団体との相互の連携・協力を図る必要があります。</li> <li>○ 生涯学習情報の収集・提供、相談体制の充実に努める必要があります。</li> <li>○ 住民の自主活動に対する支援体制の整備が必要です。</li> <li>○ 必要に応じ施設の改修等に努める必要があります。</li> </ul>	

### 第3次湧別町社会教育中期計画 現状と課題（少年教育）検討資料

第2次社会教育中期計画	第3次社会教育中期計画	備 考
<p style="text-align: center;"><b>第2節 少年教育の現状と課題・推進目標・推進項目</b></p> <p>【少年教育の現状と課題】 現在の少年を取り巻く社会、家庭環境は、複雑で多岐にわたっております。 多様化する要因として高度情報化社会があげられます。室内でのゲームやスマートフォン等の長時間利用が進み、友達同士で外に遊びに行く機会は減少しており、顔を合わせてのコミュニケーションが希薄になっています。外で遊ぶこと等の体験不足により、ルールやマニュアルどおりにすることは容易に出来ますが、臨機応変の応用力が乏しく、良い悪いの境を判断する能力が非力ゆえに問題となるケースが見受けられます。 また、少年団活動や部活動に加入している子どもは基礎体力や運動能力に比較的優れていますが、日頃運動をしていない子どもは、十分な体力が備わっていなかったり、ボールを投げること、走ること等の基本的な運動能力が低く、体力の2極化が進んでいます。 このように少年教育の課題として、自然体験や異世代間交流、仲間づくり等の様々な体験活動の提供を求められています。しかし、近年子どもたちは、少年団、部活動、塾等で日々忙しいなど、体験や交流・仲間づくり事業を実施しても参加者数が少なく事業が成立しない状況も見られることから、家庭や学校の理解、連携が欠かせない問題であると考えられます。 現在の取り組みとして、青少年指導センターでは中学生と高校生のリーダークラブを組織し、小学校高学年を対象に子ども会リーダーの養成を目的としたリーダー研修会を夏と冬に行っています。また、子ども会対抗の各種スポーツ大会 <u>においては、既存の単位子ども会のほかに湧別地区子ども会の連合組織「湧別地区サポート協議会」を加えてチーム編成するなど、湧別地区からも参加しやすい工夫をしながら実施しています。</u> しかし、<u>これらは合併前からの継続事業であり、地区ごとの参加者数の偏りが見受けられることから、</u>リーダー・指導者の養成や小学生から高校生・青年までのつながりを視野に入れた事業の再評価や見直しを積極的に進めなければなりません。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 将来において豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を重視し、達成感の中から学ぶ様々な体験活動の提供を行う必要があります。</li> <li>○ 次世代を担うリーダー・指導者活動の支援・育成が必要です。</li> <li>○ 小学生から高校生・青年まで連携した事業の展開が必要です。</li> <li>○ 現在の事業に新たな取り組みの導入及び事業の見直しの検討が必要です。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>第2節 少年教育の現状と課題・推進目標・推進項目</b></p> <p>【少年教育の現状と課題】 現在の少年を取り巻く社会、家庭環境は、複雑で多岐にわたっております。 多様化する要因として高度情報化社会があげられます。室内でのゲームやスマートフォン等の長時間利用が進み、友達同士で外に遊びに行く機会は減少しており、顔を合わせてのコミュニケーションが希薄になっています。外で遊ぶこと等の体験不足により、ルールやマニュアルどおりにすることは容易に出来ますが、臨機応変の応用力が乏しく、良い悪いの境を判断する能力が非力ゆえに問題となるケースが見受けられます。 また、少年団活動や部活動に加入している子どもは基礎体力や運動能力に比較的優れていますが、日頃運動をしていない子どもは、十分な体力が備わっていなかったり、ボールを投げること、走ること等の基本的な運動能力が低く、体力の2極化が進んでいます。 このように少年教育の課題として、自然体験や異世代間交流、仲間づくり等の様々な体験活動の提供を求められています。しかし、近年子どもたちは、少年団、部活動、塾等で日々忙しいなど、体験や交流・仲間づくり事業を実施しても参加者数が少なく事業が成立しない状況も見られることから、家庭や学校の理解、連携が欠かせない問題であると考えられます。 現在の取り組みとして、青少年指導センターでは中学生と高校生のリーダークラブを組織し、小学校高学年を対象に子ども会リーダーの養成を目的としたリーダー研修会を夏と冬に行っています。また、子ども会対抗の各種スポーツ大会 <u>を</u> 実施しています。 しかし、<u>前述した事業と同様に指導センターにおける取組みにおいても参加者数が減少しており、</u>リーダー・指導者の養成や小学生から高校生・青年までのつながりを視野に入れた事業の再評価や見直しを積極的に進めなければなりません。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 将来において豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を重視し、達成感の中から学ぶ様々な体験活動の提供を行う必要があります。</li> <li>○ 次世代を担うリーダー・指導者活動の支援・育成が必要です。</li> <li>○ 小学生から高校生・青年まで連携した事業の展開が必要です。</li> <li>○ 現在の事業に新たな取り組みの導入及び事業の見直しの検討が必要です。</li> </ul>	

### 第 3 次湧別町社会教育中期計画 現状と課題（青年教育）検討資料

第 2 次社会教育中期計画	第 3 次社会教育中期計画	備 考
<p style="text-align: center;"><b>第 3 節 青年教育の現状と課題・推進目標・推進項目</b></p> <p>【青年教育の現状と課題】  <u>成人式</u>の「20歳の主張」において活躍を誓う姿が象徴するように、青年は地域のリーダーとして大切な役割を担っています。</p> <p>近年、ボランティア等の社会貢献活動への参加意識は高まっていますが、依然として参加を敬遠する青年がいるのも事実です。実際に参加してみないとその面白さや充実感を味わうことや、経験を得ることが出来ません。社会教育の分野に限らず若い力が必要な場面はたくさんあり、個人で参加できる町民大学や成人文化教室など様々な学習を得る機会があるので、青年の事業参加についてもアプローチするとともに、参加を促すために青年の意見を取り入れ、若い力を活用していくことが町の発展に繋がると考えられます。</p> <p>また、関係団体の連携については農協や漁協、商工会には青年部があり、それぞれ活動している現状であるため、職業間を越えた仲間作りが出来れば、新しい発想や事業に発展する可能性があります。</p> <p>現在の取り組みについては、青年団体協議会に対し、活動場所として青年会館の提供や、青年団員拡大や主催事業の広報活動等、地元の青年が活躍できる地域に根ざした活動の支援を行っております。</p> <p>これらの青年組織と連携を図りながら、同じ地域に住む様々な職業・立場を生きる青年が交流できる機会の提供が求められています。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 青年同士の仲間づくりや集う場の提供が必要です。</li> <li>○ 活動機会が少ないことから、青年が活躍する機会の提供が必要です。</li> <li>○ 青年が気軽に意見を言える機会を設け、活動に積極的に関わる人材の発掘・育成が必要です。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>第 3 節 青年教育の現状と課題・推進目標・推進項目</b></p> <p>【青年教育の現状と課題】  <u>20歳の集い</u>の「20歳の主張」において活躍を誓う姿が象徴するように、青年は地域のリーダーとして大切な役割を担っています。</p> <p>近年、ボランティア等の社会貢献活動への参加意識は高まっていますが、依然として参加を敬遠する青年がいるのも事実です。実際に参加してみないとその面白さや充実感を味わうことや、経験を得ることが出来ません。社会教育の分野に限らず若い力が必要な場面はたくさんあり、個人で参加できる町民大学や成人文化教室など様々な学習を得る機会があるので、青年の事業参加についてもアプローチするとともに、参加を促すために青年の意見を取り入れ、若い力を活用していくことが町の発展に繋がると考えられます。</p> <p>また、関係団体の連携については農協や漁協、商工会には青年部があり、それぞれ活動している現状であるため、職業間を越えた仲間作りが出来れば、新しい発想や事業に発展する可能性があります。</p> <p>現在の取り組みについては、青年団体協議会に対し、活動場所として青年会館の提供や、青年団員拡大や主催事業の広報活動等、地元の青年が活躍できる地域に根ざした活動の支援を行っております。</p> <p>これらの青年組織と連携を図りながら、同じ地域に住む様々な職業・立場を生きる青年が交流できる機会の提供が求められています。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 青年同士の仲間づくりや集う場の提供が必要です。</li> <li>○ 活動機会が少ないことから、青年が活躍する機会の提供が必要です。</li> <li>○ 青年が気軽に意見を言える機会を設け、活動に積極的に関わる人材の発掘・育成が必要です。</li> </ul>	